

アイランダー離島学会機関誌

第3号



オンラインアイランダー
離島学会



わくわくするオンラインイベントを

発行：オンラインアイランダー離島学会

令和3年12月

<目次>

- I. 島の暮らしをエンジョイする人々（新潟県佐渡市編）
島での豊かで贅沢な暮らし・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 頁
（金山の歴史を語り継ぐ人）

- II. 「しまっちゃんぐ」のご報告・・・・・・・・・・・・ 6 頁

- III. 「離島の寄り合い所」について・・・・・・・・・・ 9 頁
（離島関係者と企業の交流報告）

- IV. 挑戦！離島検定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10 頁

I. 島の暮らしをエンジョイする人々（新潟県佐渡市編）

○島での豊かで贅沢な暮らし

ー金山の歴史に興味を持ったきっかけー

通勤途中、私は車の運転をしながら周りの景色を楽しみます。海岸通りを過ぎると市街地に入り、平野部に広がる水田にいる朱鷺トキを時々見ながら職場へ向かいます。



佐渡金銀山を調べる

私は佐渡で生まれ育ちその後島外に出て結婚しました。昭和 61（1986）年、山梨県甲府市から主人と 2 人の子供とともに実家のある新潟県佐渡市旧相川町へUターンし、「史跡佐渡金山」という観光施設に就職しました。この頃の佐渡島はおけさ、たらい舟、佐渡金山、尖閣湾せんかくわんとお決まりの観光施設を巡る団体ツアーで大型バスが狭い道を往来していました。平成に入ると佐渡 100 万人観光の時代に突入し、目まぐるしい時間を過ごしていました。

ある時、お客様から小判はどのようにして作ったの？と尋ねられ、お土産の販売担当だった私はまったく答えることができませんでした。そのことがきっかけで、町で開催している歴史講座に参加しました。郷土史の先生方から様々な事を学んでいく中で、佐渡の歴史や文化が佐渡金銀山と大きく関わっていた事を知り、その数年後、私は町のガイドになりました。また、佐渡奉行所が旧相川町に建設されてから 400 年を向かえた平成 13（2001）年「史跡佐渡金山」でもガイド養成が始まり、私もガイドの一員になりました。こうして私は旧相川町のふれあいガイドと史跡佐渡金山の両方のガイドに携わるようになりました。



ガイドの様子

—休日のまち歩き—

休日は、時々、奉行所から金銀山へ続く江戸時代のメインストリートだった京町通りをゆっくりと散歩します。車で通り過ぎると気付かない小さな発見をしたり、道で出会った人と挨拶を交わします。途中軽く食事をしたり、お茶を楽しんだり、お店に立寄ることも楽しみの一つです。



京町通り

この京町通りは江戸時代に栄えた鉾山町です。平成 27（2015）年に「相川の鉾山及び鉾山町の文化的景観」として国の重要文化的景観に選定されました。江戸時代の鐘楼、明治・大正時代に建設された建屋、昭和初期の古い町家など 400 年の歴史がこの町に混在し、鉾山町として生きてきた人々の暮らしが伺えます。お互いに譲り合いながらゆっくりと車を運転する光景も江戸時代であれば繁華街だった道幅では狭く感じてしまいます。

夕方に鐘楼へ向かうおじさんに出会うことがあります。江戸時代に時を知らせていた鐘を今はボランティアで撞いているとの事でした。毎日朝夕決まった時間に合わせて鐘を撞くために出かけているそうです。



鐘楼



レンガ塀

その隣にあるレンガ塀の中に昭和初期に建設された旧裁判所が残されています。当時の建物を利用して現在は佐渡版画村美術館として内部の見学をすることができます。

道路を挟んだ向かい側には復原された佐渡奉行所が見えます。この奉行所には金鉱石きんこうせきから金を取り出していた工場「勝場」せりばの様子を体験することができます。江戸時代、佐渡の奉行所は小判の製造まで行っていたことを知り、すぐに自慢したくなりました。家族に話し、友達にも教え、実際に奉行所の見学に出かけました。発掘された遺構からは当時の技術力が分かり、どのように金を取り出していたのかを係の方に説明していただきました。

奉行所の傍にある高台からは港が見えます。相川の夕日はとても綺麗で沈んでしまうまで見入ってしまいます。



大間港と夕日

すでに私の子供たちは島を出て時々孫と遊びに来る生活になりました。毎

年夏にはじいちゃんとカブトムシを探しに山へ行ったり、海岸で泳いだりと、まるで30年前の自分たち家族のようです。きっと将来この子供達も佐渡が大好きで移住して来るのではないかと少し期待もしています。

—佐渡島の金山を語る—

現在、私は「史跡佐渡金山」を退職し、佐渡市役所で働いています。仕事の一部に「佐渡島の金山」を島内外の人に知っていただくために小・中学生の出前講座や、公民館活動、会社や企業の従業員の方にお話をさせていただいたり、現地に出向いて説明をしたりすることがあります。また、小さなお子さんと一緒に参加できるように遊びの中で世界文化遺産を知っていただくイベントのお手伝いもしています。



説明の様子



きらりうむ佐渡での体験の様子

世界文化遺産の中でも鉱山という特殊な分野での登録を目指しているため、より分かりやすく理解できるような解説を心がけています。

その解説に役立っている場所が平成 31（2019）年にオープンしたガイドン施設「きらりうむ佐渡」です。県外からの修学旅行の生徒さんに、「佐渡島の金山」は世界でも珍しく「砂金」と「金鉱石」の2つのタイプの金が採れた珍しい島である事。この2つの違ったタイプの金をどのような方法で取り出したのかを

映像とプロジェクションマッピングでご覧いただいています。実際に「大人にも分かりやすく良かった！」と評価を頂いています。

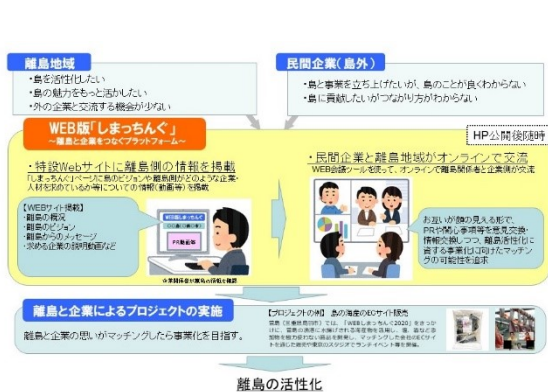
佐渡は豊かな自然だけではなく、世界中の人が必要とした金を産出した島です。私はその輝かしい金の歴史を持つ「佐渡島の金山」を大勢の人に知っていただき、子供達が地元の良さに気付き、将来自分たちの手でふるさとを守っていける大人になってくれることを願い、これからも語り続けようと思っています。

Ⅱ.しまっちゃんぐのご報告

1. WEBしまっちゃんぐ 2021 の開催について

地域課題を解決する1つの手段として、離島と企業をつなぐ「マッチング」の場を提供するイベントとして『しまっちゃんぐ』を開催しました。対話重視のマッチングにより、新たな商品の開発や新規事業の構築を目的としています。これまでに計7回開催し、のべ64の離島地域と187の企業・団体が参加しています。今年度は11の離島地域と13の企業・団体が参加しました。

今年度はオンライン上でのマッチングを目指し、しまっちゃんぐのホームページを10月1日（金）から公開しました。また、10月20日（水）と11月26日（金）の計2回のWEB交流会を実施しました。



離島と企業をつなぐ WEB 版「しまっちゃんぐ」概要・参加離島位置図

2. 離島地域のニーズについて

今年度、参加離島から提示された主なニーズは「特産品の開発」「販路拡大」「ワーケーションの呼び込み」「グランピングの運営」「空家の活用」「ICT 技術の活用」等々で、例年のニーズである離島の資源を活かした商品開発や観光促進に加え、コロナ禍や SDGs の取組といった社会情勢の変化を踏まえた新たなニーズも見られました。

6. 笠岡諸島の課題

○海洋体験学習など交流事業のレベルアップ

・コロナ禍で停滞しているが、依頼など展開の機会が多い

→収益に繋がる仕組みづくりの必要性



かきおが島づくり海社

②島のポテンシャルを活かすプロジェクト

<課題例②>観光客の受け入れ

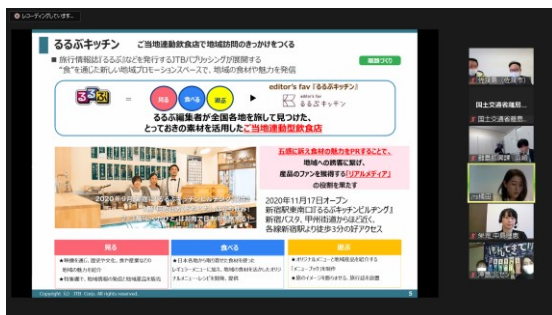
→アウトドア関係企業との連携による
グラウンドゴルフ場・グランピング等の土地利用を検討



離島のニーズの例

3. 交流会について

WEB 上でのマッチングを促進するため 2 回に渡って、交流イベントを実施しました。1 回目は過去の開催でマッチングに至った参考事例の紹介や離島のニーズについての発表を行い、マッチングに向けた心得や事業化に向けたポイント、離島の関心事項を共有する場となりました。2 回目は企業との交流期間を踏まえ、マッチング状況の成果報告とともに、今後のマッチング円滑化を見据え、企業や離島のしまっくんぐを通しての気づきや、改善点、ニーズを踏まえた提案を示していただき、ナレッジの共有や意見交換により、案件の磨き上げを行う場となりました。



今年度の『しまっくんぐ』の様子

4. 今回の成果と総括

「しまっちゃんぐ」は離島と企業双方が歩み寄ることで、マッチングに至ることができます。昨年度マッチングされた「乾燥アカモクの通販化（三重県鳥羽市と京都の企業）」事例では、企業側が地元漁師まで巻き込んだ関係を築き、干物づくりの生産条件（冬季限定）や伝統漁法の背景まで含めた商品開発を行いました。さらに地元漁師と販売促進（PR 動画の作成等）も実施され地域との緻密な連携が見られました。企業の担当者に当時を振り返ってもらい、マッチングのポイントについて尋ねたところ「自治体による尽力が非常に大きかった」と、事業者間の調整役として自治体がしっかりサポートされていたことが秘訣だったと分かりました。

今年度のしまっちゃんぐは常設の HP や交流イベントの実施により、結果のべ 16 件の個別打合せにつながり(12月2日現在事務局調べ)、複数のマッチングの案件を発生することができました。また、マッチングまで至らなかったケースでも、双方（離島・企業）のニーズの理解が深まり、今後の検討事項を明らかにすることができました。

今後の更なるマッチングに向け、事務局のサポート体制の継続だけでなく、マッチングに至った成功事例の要因といったナレッジを蓄積していき、横展開を図っていく取り組みが必要だと感じております。本取り組みについて引き続きご支援の程よろしくお願いたします。

<p>2 新たに見えてきた課題・今後の方針</p> 	<p>(1) 参加して気づいた点・新たに見えてきた課題</p> <ul style="list-style-type: none">■ 商品開発を成功させるためには、開発にかかるストーリー作りが大切であること。■ 島外企業との関係性作りから始めて、島に興味を持ってもらうこと。■ 商品開発のみを考えるのではなく、生産・販売等の一連した計画を立てる必要があること。 <p>(2) 今後の方針</p> <ul style="list-style-type: none">■ 島内で開催するイベントに、島外企業にも参加いただける仕組み作りを検討。 	<p>ブレマシャンティの 菅島プレゼンター</p> 
---	--	--

新たに見えてきた課題/昨年度商品化した鳥羽市の例

Ⅲ. 「離島の寄り合い所」について

11月22日（月）、24日（火）～26日（金）の10時～17時に離島関係者と企業とがお互いの情報やアイデアを共有し合い、自由に交流を行う場として「離島の寄り合い所」が開設されました。

（来場記録）

22日（月）	自治体（九州・四国地方）、商工会議所（九州）が来場。伝言板に離島のアピール等が記載されました。
24日（水）	ソフトウェア開発/インターネットの企業が来場。これまでに来場された自治体・商工会議所へ情報を共有。アポイントを取り合う動きが発生しました！
25日（木）	雑誌・書籍の出版業者が来場。これまでに来場された自治体の情報が共有されました。
26日（金）	商工会議所（九州）が来場。これまでに来場された自治体・企業の情報が共有されました。

（来場者数実績）

離島関係者	4団体（北陸・中部・四国・九州）
商工会議所・企業	4団体

（オンラインアイランダー離島学会による総括）

初めてということもあり恐る恐る開始した取り組みでしたが、一部の企業と離島関係者により交流が発生したほか、「しまっちゃんぐ」参加団体と自治体との連携も発生しました。離島関係者や企業の交流が少しずつ生まれていく様子を楽しく拝見しておりました。

今回オンラインアイランダーの機会を活かして実施した「離島の寄り合い所」ですが、取り組みの周知や中長期的な開設に向けて、今後も検討を進めていきたいと思っております。

IV. 挑戦！「離島検定」

11月20日からアイランダーHP内で掲載を開催した「離島検定」。
挑戦者の内訳は以下の通りとなりました。

高得点獲得人数	
100点	62人
95点	40人
90点	13人
80～85点	15人
70～75点	21人
60～65点	49人
50～55点	33人
40～45点	25人
30～35点	7人
20～25点	4人
10～15点	1人

11月20日（土）から28日（日）までに計270人が挑戦しました。
うち90点以上の高得点者が115人でした。おめでとうございます！
なお、高得点者には「離島検定博士認定証」を発行いたします！

